

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成28年11月1日(火)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 古田 泰幸
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第126号

【目次】

1. 2016年度 MCLC防災訓練実施
2. 技術検討会開催
3. 社内教育講座のご紹介
4. 三菱化学グループ 生産技術ポスターセッション参加報告
5. 現場紹介 ~水島支社 山口営業所(山口県山陽小野田市)の巻~
6. 国際物流総合展2016 参加レポート
7. 自動認識総合展 参加レポート

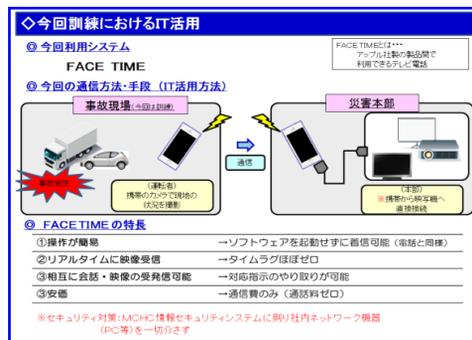
1. 2016年度 MCLC防災訓練実施

9月16日、坂出支社において総合防災訓練を実施しました。今年度は、従前からの活動に加え、今まで以上に新たなICT※を活用した訓練を実施いたしました。

内容としましては、「屋外消火栓操法基本訓練」「ローリー積荷漏洩事故想定訓練」「内航船舶火災事故想定訓練」を実施しました。その内の「ローリー」と「内航船舶」想定訓練の通信手段として『FACE TIME』(右図)という映像通信アプリケーション並びに『U-STREAM』という動画共有アプリケーションを利用し、状況をリアルタイムに映写化し、情報の可視化・共有化、並びに確認・指示の迅速化を図り、効果的な訓練を実施しました。

今回利用した2種類のICTについては、訓練時発生した不具合などを検証、改善を行い、支社災害対応のツールとして導入し、訓練のレベルを更に向上させていきたいと考えております。

※ICT: Information and Communication Technology 情報通信技術



【FACE TIMES】

【訓練風景】



2. 技術検討会開催

2016年9月14日～15日 本社において技術検討会を開催しました。本検討会は技術力向上と情報の共有化、及び若手育成を目的として毎年開催し、今回で第40回を迎えた歴史ある検討会です。

各現場の発表に対して、社長(石川)、専務(小倉)をはじめ、各現場から参加されている方々から質問やアドバイスを受け、情報の共有化、更なる技術力向上を図る場としています。

今回は、下記の発表内容にもありますが、不具合対応⇒設計・保全方法見直し といった検討内容が多くありました。参加者には、今期新入社員をはじめ、技術部門以外の方も多数参加して頂き、懇親会を通しての人材交流もあり、活発な意見交換が出来て、大変有意義な検討会となりました。

更に、検討会での新規技術の紹介に加え、「国際物流総合展」での見学により、各現場での懸案事項に対する改善検討などへの情報収集も行いました。

今後の中期経営計画「MCLC APTSYS 20」の達成に向け、技術力向上への一助となる機会を得て、第40回技術検討会を終えました。



【発表風景】

14日	内 容	分類	部署
13:00 ~ 13:10	開催挨拶		技術本部
13:10 ~ 13:50	MCLC橋前浸淫工事と橋維持管理について	設備管理	川崎
13:50 ~ 14:30	テント倉庫材質検討について	材質検討	水島
14:30 ~ 15:10	T-K-3 (潤滑油) 水混入トラブル対応	設備管理	尼崎
15:10 ~ 15:30	休 憩		
15:30 ~ 16:10	SE包装設備の保全手法検討 (中間報告)	保全方法	四日市
16:10 ~ 16:50	筑波設備保全方法見直し	設備管理	筑波
16:50 ~ 17:10	これまでの業務の取組み	自己紹介	黒崎
17:10 ~ 17:30	現在の担当業務について	自己紹介	水島
15日	内 容		部署
9:00 ~ 9:40	タンク/配管 洗浄取進めについて	品質管理	尼崎
9:40 ~ 10:20	E Lローリー亀裂補修対応	設備設計	黒崎
10:20 ~ 10:30	休 憩		
10:30 ~ 11:10	ビーコンの活用について	新技術	本社
11:10 ~ 11:30	講評		
11:30 ~ 11:50	講評		
11:50 ~ 12:00	閉会挨拶		技術部

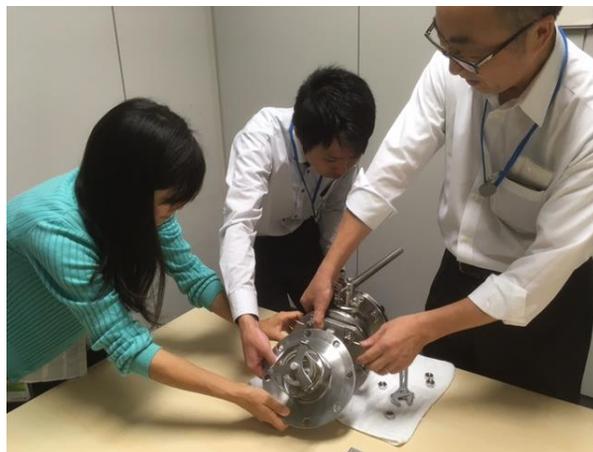
【発表内容】

3. 社内教育講座のご紹介

前号でご紹介しましたが、当社では本年4月より本社社員を対象にした、社内の専任講師による「基礎教育」講座を開催しています。第2四半期(7～9月)では「消防法(危険物トラック輸送)」、「車両基礎」、「引火、火災・爆発」などの化学品物流に不可欠な知識の習得に加えて、「保護具(防毒マスク・吸引缶の使い方)」や「ボールバルブの構造」といった体験教育型の講座が開催されました。

「ボールバルブの構造」の講座では、ISOコンテナに設置されていた現物のボールバルブを用いて実際に見て、触って、分解したり、組み立てたりすることで座学だけでは理解しづらいバルブの構造や仕組みを学ぶことができました。受講者は、バルブを見るのも初めてという人もいれば、現場で見たことはあるが操作したり、分解したりしたことがない人など様々でした。実際にスパナを使って分解しながら、内部の構造はもちろんのこと、ボルトを外す順番や内容物が噴出するリスクを回避する方法などを講師の巧みな演出とともに学ぶことができました。また、組み立てる際にもボルトを締めすぎるとバルブが開閉できなくなることも実体験でき、非常に分かりやすく、しかも楽しく学べる講座となっていました。この講座は、急ぎよ追加講座を開くほどの人気講座となりました。

第3四半期(10～12月)では、保護具(防毒マスク・吸引缶の使い方)や「引火、火災・爆発」などの継続講座に加えて、「静電気入門」、「安全操作」など新規講座をラインナップして社員のさらなるレベルアップを図っていきます。



【現物を使用しての講義風景】

4. 三菱化学グループ 生産技術ポスターセッション 参加報告

2016年10月13日に第13回三菱化学グループ生産技術ポスターセッションが開催され、当社も前回に続き出展しました。今年はスペースシャトルが今まさに飛び立とうとするような勢いを表現すべく「3-2-1 Liftoff！」をメインテーマに掲げ、三菱ケミカルホールディングスグループの三菱レイヨン社や三菱樹脂社なども加えた全43テーマで開催されました。発表は製造現場の安定化、コスト削減、省エネ、製品開発、保安安全などに有効な生産技術の適用事例から、新規事業や生産システム・プロセス、設備管理に関するものまで多岐にわたる内容でした。

当社からは下記の3テーマを出展し、それぞれの発表者から説明を行いました。

当社テーマ

- ①「フレコン包装作業環境改善の取り組み
(電気力線式放射式除電器の活用)」
＜技術部＞
- ②「炭素繊維強化プラスチックプロペラを用いた省エネに関する取り組み」
＜船舶管理部＞
- ③「3Dシミュレーションソフトの活用による
物流効率化の取り組み」
＜ソリューション営業部＞

当日は発表者と来訪者との間で活発な情報交換が行われ、多くの方のご意見を頂くことができ、大変貴重な機会となりました。



5. 現場紹介 ～水島支社 山口営業所 (山口県山陽小野田市)の巻～

山口県南西部に位置する山陽小野田市は、平成17年(2005年)3月に小野田市と厚狭郡山陽町が合併して誕生しました。

水島支社山口営業所は4つの現場で構成されていますが、そのうち山陽小野田市には3つの現場があります。N社、T社、U社に駐在事務所を構え、各事務所1～2名の少数精鋭で日々物流業務の安全管理や効率化検討をおこなっています。

山陽小野田市は、明治以降にセメントや化学、製油を中心とした工業都市として発展してきました。現在では、隣接する宇部市と共に北九州工業地帯・瀬戸内工業地域の一角を担っています。また、昔から工業と密接な関係があったこともあり、市内には現在も「セメント町」「硫酸町」の町名が残っています。

これらの紹介から工業都市の味気ないイメージを持たれたかも知れませんが、3つの「全国100選」があります。南北に流れる厚狭川から水を取り入れる堰と寝太郎用水路が「疎水100選」、穏やかな瀬戸内海に面する きららビーチ焼野と竜王山からの夕陽が「日本の夕陽100選」、竜王山から見た関門海峡や工場地帯の幻想的な夜景が「新日本の夜景100選」です。



厚狭川の寝太郎堰(ぜき)
(疎水百選に選定)



焼野の夕陽
(日本の夕陽100選に選定)



竜王山からの夜景
(新日本の夜景100選に選定)

長い歴史の中で工業と豊かな自然が調和した山陽小野田市に、是非お立ち寄り下さい！

6. 国際物流総合展2016 参加レポート

2016年9月13日～16日に東京ビッグサイト(東京国際展示場)で行われた「国際物流総合展2016」に参加してきました。2年に1回開催される本展示会は、今年で12回目を迎え、「物流展で見つけよう～課題解決のネクストステップ～」というテーマのもと、最新の物流システム機器、ソフトウェア、サービス等、450社もの出展がありました。

近年、IoT/M2Mの発展により本展示会でも最新技術を活用した商品やサービスの紹介が多く、沢山の方々が興味を持って話を聞いている場面が目立ちました。

私は作業員やモノの動線解析が可能な「ビーコン」や配車計画システムと運行管理システムを連動させた管理システムやウェアラブルピッキングシステム等を注力して聞いてきました。

どの商品・サービスも様々な工夫がされており、最適な物流を追求しているなど感じました。

当社としても、日頃から最新情報を収集し、お客様の要望に沿うようなKAITEKI物流をご提案できるように取り組んでいきたいと思っております。



7. 自動認識総合展 参加レポート

前項の国際物流総合展とほぼ同時期(2016年9月14日-16日)に、東京ビッグサイト東ホールにて自動認識総合展が開催されました。この展示会では、生産、物流、セキュリティ、医療や介護等の分野において、現場が抱える様々な課題に対して、センサーや画像認識等の最先端技術を駆使した各種ソリューションが展示してありました。

出展内容は「モバイル端末やウェアラブル機器による自動認識技術」「画像認識技術」「センサーネットワーク構築技術」に関するものに分類されていて、物流に関する技術については、スマートグラス等ウェアラブル機器を身に付けて作業効率や作業品質を向上させる技術や、画像処理や3次元計測による個体パターン認識技術、RFIDやZigBee等センサー機能付き媒体を用いて”モノ“を認識し管理するIoTシステムなどがありました。

認識技術の精度アップ、機器小型化において技術が著しく進歩しており、物流現場の作業者を支援、管理するような設備、機器も、近い将来本格的に導入されていく状況にあることを感じました。



編集後記

ソリューション営業部 関谷

神奈川ロジスティクスセンターの運用がスタートして、早2ヵ月となりました。この頃には満庫状態を目指して営業展開していましたが、思惑通り進んでいない状況が続いています。しかしながら、少しずつではありますが、庫内が埋まりつつあります。

今後更なる営業を実施し、神奈川ロジスティクスセンターが関東の基盤・中継拠点となることを目指します。

まだ多少の余裕がありますので、神奈川地区倉庫案件がございましたら、是非当社にお声かけください。